

2014.5.17 「星なかま☆ひめじ」原稿：片岡富士夫

会報誌の表紙の当番になって、今回は表紙に何を使おうか、どんな原稿を書こうかなという事だけど、僕の星の観察は家のベランダから時折、ラプトル50のみ。そして会報誌のネタを探すために再びイタリアに行く余裕も今はない。これだけでは書く記事もないし、どうしようかと思っていたらなぜか頭にパーシヴァル・ローレルの名前がよぎった。

ウィキペディアによると天文学者のカール・セーガンは「最悪の凶面屋」、SF作家のアーサー・C・クラークは「いったいどうしたらあんなものが見えたのだろう」と自著の中で酷評している。最大の業績は、最晩年の1916年に惑星Xの存在を計算により予想した事であり、1930年に、その予想に従って観測を続けていたクライド・トンボーにより冥王星が発見された。冥王星の名 "Pluto" には、ローウェルのイニシャルP.Lの意味もこめられている。日本研究家でもあり、1889年から1893年にかけて、明治期の日本を5回訪れ、通算約3年間滞在した。来日を決意させたのは大森貝塚を発見したエドワード・モースの日本についての講演だった。彼は日本において、小泉八雲、アーネスト・フェノロサ、ウィリアム・ビゲロー、バシル・ホール・チェンバレンと交流があった。神道の研究等日本に関する著書も多い。彼が旅の途中で訪れた穴水町にローエル顕彰碑が置かれ、彼が訪問した5月9日にはローウェル祭を開き、天文観測会や講演会が行われていると記されている。なぜか僕は彼とハーシエルの名前とを勘違いをよくしてしまい、彼らの業績がごっちゃになり。そんな乏しい知識の中だからこそ、今まで会報誌に寄せた自分の記事を振り返ってみる事にした。果たして。

僕は会報誌227号（2011年11月26日付けの記事）に次のような文章を書いていた。「2011年を振り返って天文に関する僕にとってのベスト1は朝日新聞のボイジャーの記事だった。それは『米探査機ボイジャー、太陽系脱出秒読み、人工天体で初』1977年に打ち上げられた米航空宇宙局(NASA)のボイジャー1号が間もなく太陽系を出る.....ところで今年1年の僕の体験の中で嬉しかった事は、既に会報誌224号で書いた偶然この夏に訪れた石川県穴水市でのことだろう。なんとパーシバル・ローエルと藤井旭著『星になったチ口』との関連だった.....」

そこで、もう一度、いまでもこれからも僕が生きていく限り関心あるであろう筆頭のボイジャーとふと脳裏に浮かんだローエルを改めて振り返ってみる事にした。

ボイジャーに関してはJAXA,NASAのウェブサイトを参考にしようとして。さっそく

もう一つの関心ごとと言うと。

今回の会報誌256の表紙を飾る写真は僕もローエルも訪れた能登の穴水にある「ボラ待ち櫓」である。このボラ待ち櫓の事をローエルは面白い表現で記している。そして今回紹介する本はローエルが書いた『NOTO』の表紙である。残念ながらこの本を僕はまだ読んだことはない。彼の著書の中には小泉八雲(ラフカディオ＝ハーン)が日本に来るきっかけとなったものもある。会報誌223号2011年8月発行には『旅行の途中で見つけたもの』

「何気なく2011年8月1日石川県穴水市を訪れた。能登鉄道の終点で駅に立ち寄るとなんと案内板にパーシヴァル・ローエルの名前が.....」

この町は「星空のまち」と呼ばれ、駅から車でそれほど遠くない所に国民保養センター

「キャッスル真名井」があり、そこには天文ドーム、そしてローエルの記念碑がある。

会報誌224号には『パーシヴァル・ローエルと星になったチロ』という題で記事を書いていた。藤井旭さんの星になったチロの本の中には『パーシヴァル・ローエルと星まつり』という題で「ローエルは福島県にある会津磐梯山の山里の吾妻山へ。ローエルの立ったその場所でチロの星まつりが開かれる。」ローエルが日本を去る直前の明治26年に吾妻山の一切経山が爆発し、ローエルは調査のため吾妻山に登ったという。

チロにまつわる『星ぞらへの招待』のURL

<http://members.jcom.home.ne.jp/1221600001/index.html/>

<http://members2.jcom.home.ne.jp/starwalker2/syoutai.html>



ローエルの著書の中には、日本人を蔑視する表現もあるらしい。またカール・セーガンの酷評にも見られるように、某ウェブサイトには彼の事を『「火星に運河がある」「火星人はきつといる」と大騒ぎした人として有名です。彼は、冥王星の存在を数学的に予言してみせるといふ天文学的な偉業を成し遂げた人物でもあるんですが、こっちはあまり有名じゃありません。「火星に知的生命体がいることを頑なに信じ、一生をかけて観測を続けた変人天文学者」というイメージがあまりに強烈だからでしょうか。個人的には、彼のこういうところが大好きなんですけどね。』とあった。まさに同感。到底科学者とは言いがたい彼だが、好奇心が強く、ある意味、人間味のある人で興味が尽きない。

http://www.um.u-tokyo.ac.jp/exhibition/2010MARS_description1.html

http://www.lizard-tail.com/isana/review/view.php?search_id=20030727143105

http://www.mitsubishielectric.co.jp/dspace/column/c0308_1.html

<http://blogs.yahoo.co.jp/hkato0520/31449790.html>

<http://www.h2.dion.ne.jp/~kazuf/sao/paorep/anamizu-lowell.htm>

http://www.geocities.co.jp/une_genzaburo/Percivallowell.htm

<http://www.notostyle.jp/index.php?id=2047>

<http://homepage1.nifty.com/keikumiaki/page7.htm>